

第26回V・ファーレン長崎支援会長崎支部会議事録要約

V・ファーレン長崎支援会運営部会長：平鍋公二

下記の通りご報告申し上げます。

1：日時 2012年10月17日（水） 19:00～21:00

2：会場 長崎市市民会館第5会議室

3：参加者 菊次専務、溝口部長（クラブ）、大山支部長、藤原運営委員長（支援会）、一般参加8名（総12名）

4：議題

- (1) V・ファーレン長崎からの報告の件
- (2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件
- (3) ホームゲームブース出店の件
- (4) サクセスパートナー制度の現状と今後の件
- (5) ボランティア制度の件
- (6) ミニサポーターズカンファレンスについての件

5：概要

(1) V・ファーレン長崎からの報告の件

- ・J2昇格にあたって財政面が最後の課題である事と個人持株会や後援会増加に向けた取り組みが説明された。
- ・第5回支援会諫早部会でのクラブスタッフよりホームタウンイベントや会社体制に関する失言があった事に対してクラブより謝罪と訂正が行われた。

(2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件

- ・9/29 ホームタウン清掃活動に50名弱の参加があり成功に終わった事が報告された。
- ・9/29 観戦者簡易アンケート結果により、長崎市開催の場合、長崎市在住者が7割を超える事が示された。
- ・11/4 ホームゲーム後に佐世保での清掃活動を予定している事が報告された。
- ・第6回諫早支部会で諫早市在住者の参加が少ない場合、活動方針を変更する予定である事が報告された。
- ・スタジアム署名でクラブが事前約束を履行していないと抗議が行われ、クラブが謝罪。対応する事となった。

(3) ホームゲームにおけるブース出店についての件

- ・クラブよりホームゲームでの出店要綱作成や制度整備等を作業部会が準備を進めている事が報告された。

(4) サクセスパートナー制度の現状と今後の件

- ・来期のサクセスパートナーについて「連絡の活発化」「フロントの担当者専任」などを協議した。
- ・来期以降のサクセスパートナー制度への提言を次回の支援会で継続協議する事とした。

(5) ボランティア制度について

- ・「クラブの意識改革」「募集方法を判りやすくする」「国体ボランティアの活用」などの意見が出された。
- ・次回の支援会でも継続協議する事とした。

(6) 12月のミニサポーターズカンファレンス開催の件

- ・12月19日に予定する第28回支援会でミニサポーターズカンファレンスを開催できないか提案した。

6.次回日程：

- ・第27回支援会長崎部会 11月14日（水）19:00～ 長崎市市民会館
- ・第6回支援会諫早部会 12月4日（火）19:30～諫早市社会福祉会館

（以上）

第26回 V・ファーレン長崎支援会長崎支部会議事経過及び所見

V・ファーレン長崎支援会運営部会長：平鍋公二

1：議事経過及び所見

(1) V・ファーレン長崎からの報告の件：

議事経過： 菊次専務よりトップチームの状態について、リーグ関係者から好評価を受けた事などの報告がなされ目標優勝達成への決意が述べられた。一方で来期の昇格へ向けて、最後の課題として財政問題があげられ個人持株会、後援会増員などで対処する為に活動中である事が説明された。

その後、10月2日の第5回支援会諫早部会での「のんご祭り不参加に関する説明」、「祭りを軽視するような発言」、「社内不一致と誤認させるような発言」について、本意と違う意味に取られかねない誤解を招く発言であったとの事が説明され訂正と謝罪が行われた。最後に専用スタジアム署名活動についてクラブ内がしっかり対応せずいた事に対して、支援会、V-ist、ウルトラを始めとしたファンに全面謝罪がなされ、今後は対応を行う事が約束された。

(2) V・ファーレン長崎支援会からの報告の件：

議事経過： 「ホームタウン清掃活動～愛してる かきどまり～」を9月29日のホームゲーム後に実施した事が企画リーダーの福島美由紀より報告された。また、公式サイトでの告知協力及び専務参加についてクラブへ御礼が述べられ、同イベントに50名近くの参加者があった事、参加特典の選手カードが参加者に好評であった事、イベントが予定時間内に滞りなく終わった事が報告された。また、シャトルバスとの時間の都合で参加を見送った希望者がいた事、選手の参加を希望する声が多かった事が報告された。

藤原運営委員長より本企画に際してクラブより「(優勝のかかった)重要な時期であり、選手もナースな時期である事から参加は見送らせて貰う」との回答であったにも関わらず、2週間後の公式戦では試合前の売店に選手を派遣している点が指摘された。菊次専務より「帰りの移動手段もあった為であり、試合前であった事で参加できた」と説明がなされた。一般参加者より当初の説明と話が食い違う事が指摘された。藤原運営委員長より11月4日の公式戦で清掃活動を予定している事から、清掃活動への選手参加を要望する意見が示された。

続いて9月29日のホームゲームでシールを使った簡易観戦者アンケートの結果について報告された。これまでと同様に長崎市で開催の場合の長崎市在住者の割合は7割を超える事が証明された

2012年9月29日(土) JFL27節 長崎 vs 横河 観衆：4,047人 曇	長崎市地区	183人	74%	男109人 女74人
	県北区	21人	9%	男10人 女11人
	県中央区	29人	12%	男16人 女13人
	島原地区	4人	1%	男2人 女2人
	県外	3人	3%	男7人 女3人

続いて、藤原運営委員長より8月と10月の支援会諫早部会でサッカー協会及び行政関係者以外で諫早在住者の一般参加がゼロであった事が報告され、現状では諫早部会の会議形態を再検討する必要があるとの意見が述べられた。次回(12月)の第6回支援会諫早部会で諫早在住者の一定参加がなされなかった場合、運営委員、サッカー協会、行政、クラブ中心での協議形態に諫早支部会は転換したいとの意見が出された。

最後に専用スタジアム署名活動について藤原運営委員長より「クラブが全面的に活動する」「クラブ内で意思統一する」事を条件に署名の全面協力を約束したにも関わらず、クラブが一切条件を履行していない点が指摘された。一般参加者よりクラブが手伝ってもらうのを当たり前と思っているような態度が多い事、後藤氏、竹村氏以外のクラブスタッフが協力者に対して邪魔であるかのような態度を示しているとの意見が出された。また、これまで3回の署名にクラブスタッフが1名も参加しないという状況は異常との指摘があった。

また、署名に際してクラブスタッフ派遣がない為に緊急的にボランティアを募り署名備品をスタジアム内に搬入していた支援会メンバーに対して、クラブスタッフが「支援会の人たちが勝手に入り込んでいる」と発言するなど著しく不愉快な対応が相次いでいる事が述べられた。菊次専務より全面的な謝罪が行われ、今後はしっかり約束を履行して対応するとの言葉があり、クラブの対応を見守る事とした。

(3) ホームゲームブース出店についての件：

議事経過： 藤原運営委員長より前回の支援会で、手引きや要綱がない事が指摘されたホームゲームのブース出店についての制度整備状況について質問がなされた。溝口部長よりクラブ内の作業部会で整備中であるとの回答がなされ、年内にブース出店者向けの説明会を行いたい意向が回答された。

(4) サクセスパートナー制度の現状と今後についての件：

議事経過： 新大工商店街関係者よりサクセスパートナー制度に関して「何の活動を行うに際しても予算面が問題」との認識が示され、テナント、横断幕作成等にあたり商店街内の各店から寄付を募って予算確保をしている為、各店にやる気を出させる取り組みが欲しいとの意見が出され、定期的に監督、クラブ、選手からのコメントやメッセージなどが欲しいとの要望が出された。

これに対して溝口部長より来期J2昇格した場合はナイターなどもあり、商店街が観戦しやすいゲームも増えるので観戦して何か出来ないかとの意見が出された。藤原運営委員長より、チームやクラブが新大工商店街に来て何かを行うスタイルと、商店街が試合に行ってスタジアムで何かを行うスタイルの2パターンがある事が説明され、双方向で何か出来ないかと発言がなされた。また、諫早の2つの商店街で「サクセスパートナー的な物が出来ないか」と支援会に連絡があった事が報告され、今後はクラブ内の担当者を各商店街ごとに専任にしてはどうかとの提案がなされた。

また、新大工商店街関係者より、商店街イベントにもっと積極的に選手を派遣して欲しいとの意見が出され、藤原運営委員長よりイベントに関して優先的にクラブ参加が決定されるのはサクセスパートナー制度の特徴となるのではないかと意見が出された。、菊次専務より「おおよその日程でも構わないので早めにスケジュールを出してもらえればクラブも対応出来る」との返答がなされた。最後に、サクセスパートナー制度については次回も継続協議を行う事を決定した。

(5) ボランティア制度についての件：

議事経過： 一般参加者よりボランティア制度以前にクラブ内のスタッフのボランティアに対する意識や対応を改善する必要があるとの意見が述べられた。また、クラブがボランティアを急募していると言いながら、公式サイトの見難い場所にしかボランティアに関するコーナーや記事がない事、ホームゲーム時にボランティア募集用ブースも存在しない点が指摘され、何も改善しようとしていないとの意見が出された。

藤原運営委員長より、先日、2014年長崎国体に向けてのボランティア募集が始まった事が説明され、同ボランティアの研修や実務研修が行われる事が予想される為に、V・ファーレンの公式戦で活用出来ないかとの提案がなされた。また、一般参加者よりクラブがボランティアを募集するにあたり「どんな人材」を「どんな作業を行う為に」「何人くらいいるのか?」といった具体的名な明記が必要との意見が出された。本案件も次回も継続して協議する事とした。

(6) サポーターズカンファレンスについての件：

議事経過： 藤原運営委員長より第28回支援会長崎部会が12月開催である事が説明され、例年通りならばクラブオフィシャルサポーターズカンファレンス開催が2013年1月末である事が予想され、それでは新シーズンについての話し合いしか出来ない事が指摘された。昨年の12月にも実施したように今年も12月19日開催予定の支援会で今シーズンについての反省や総括などを行うミニサポーターズカンファレンスが開催出来ないかとの提案がなされた。溝口部長より支援会から正式に提案があればクラブは可能かどうか検討するとの回答があった為に提案を行う事とした。

藤原運営委員長より今後の支援会スケジュールが説明され閉会した。

- ・第27回V・ファーレン長崎支援会長崎支部会：11月14日（水）19:00～ 長崎市市民会館第5会議室
- ・第7回V・ファーレン長崎支援会諫早部会：12月4日（火）19:30～ 諫早市社会福祉会館

（以上）

V・ファーレン長崎支援会運営部
vwnsienkai@yahoo.co.jp